

環境だより



環境課 ☎66・1121

散歩中のフンの始末はしっかりと

今やペットは、飼い主にとって、人生のパートナーとして、家族同様かけがえのない存在となっています。

しかし、相変わらずなくならないのが「フン公害」です。きれいなまちで、みんなが気持ちよく暮らせるよう、周囲に対する配慮を今一度考えてみませんか。

後を絶たないフン公害への苦情

犬のフン公害に関する苦情が、市民のみなさんから繰り返し寄せられています。

きれいなまちは、マナーから

主な苦情は

- 市内のいたるところで飼い犬のフンが目につく
- 公園の砂場がフンだらけで、子供を遊ばせられない
- 毎朝、家の前の道が犬のフンで汚されている
- フン処理の袋を持って犬の散歩をさせているが、袋はいつも空のまま

飼い主はマナーを守って

犬の飼い主は、フンの始末をする責任があります。犬のフン公害防止看板を見かけたら、「ここにフンが多く放置されて、近所の人困っているな」と思って、地域の環境汚染防止、清潔保持に努めてください。そうすれば、自ずとみんなが、気持ちよく暮らせるまちに近づけるのではないのでしょうか。



消防最前線

Journal of Fire Department 119

URL <http://www.city.gamagori.aichi.jp/syoubou/index.html>

「気をつけ!」
「整列休め!」
「敬礼!」

と、消防署では必ず毎日どこかで掛け声が聞こえてきます。消防士は、指揮者から掛け声が掛かると、無意識に体が反応するほど、一連の決まった動作が体に染み込んでいます。この一連の動作を「訓練礼式」といい、消防士になつた瞬間から消防学校でみっちり仕込まれます。

消防学校では、それぞれ一日中、何度も「敬礼」「なおれ」「まわれ右」などと同じ動作を繰り返しては、敬礼の手の向きや角度、気をつけの指の伸ばし具合や足が開いた角度などを教官から徹底的に指導

気をつけ! 敬礼!!

されます。わずかでも礼式と違えば、厳しい叱責を受け、罰として腕立て伏せを課せられます。夏の炎天下だろうと真冬の凍える寒さの中だろうと、50人以上にもなる隊列の行進が完全にそろうまで何十分間も歩き続け、そして隊列全員をつま先やかかとが一直線上にそろうまで立ち続けなくてはなりません。さらに毎朝、通常点検で服装の乱れや手帳の出し方を指導確認されます。

こうして、半年間、消防士としての規律を自らの体にたたき込むことで、これからの消防人生における団結力と協調性の大切さを自覚するのであります。
「訓練礼式」は、消防署のあらゆるところで欠かすことができず。朝の交代時や点検の報告など、状況と服装によっても使い分ける必要があります。消防士にとっては当たり前の動作ですが、そこには消防士としての厳格な規律と協調性が凝縮されているのです。